

*状況が変わるとすぐに不幸になるものの中には幸せはない。105歳のクリスチャン現役医師のことば。「人間の夢見る幸福というのは、往々にして、貧乏するとか、仕事に失敗するとか、あるいは病気にかかるということによって不幸に変わってしまうような、はかないものである。病の中にも心の幸福を得るためにはどうしたらよいかということを考えなくてはならない。」人生には様々な不安があるが、それは不幸ではない。

*聖書が教える「幸せ」。「**幸いなことよ。悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。**」（詩編1：1）この「幸い」という言葉の語源は「まっすぐ進む」という意味であると考えられる。それは神に向かってまっすぐ歩むということである。「悪者」「罪人」「あざける者」などは、神から離れている人、神に関心を持たない人、神のことばを聞かない人、神を信じる者を馬鹿にする人たちのことを指す。「幸いな人」とは、「**まことに、その人は【主】のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。**」（1：2）天地創造の神である「主」のおしえを第一にして生きる者が「幸い」という。「おしえ」というと、命令、守るべきものというイメージがあるが、主の究極のおしえは「神の恵み」であるから、「神の恵み」に感謝して歩んでいる者は、、しなければならぬ、、してはならないという思いから自然と解放されている。

*「**その人は、水路のそばに植わった木のように。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。**」（1：3）水路は常に水が流れているところ。その永遠の水をいただいていきるとき、私たちは常に神様との交わりの中で生きることができる。それが幸せの秘訣である。「**わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。**」（ヨハネ15：5）私たちは、常に不安、悩み、苛立ち、憤りなどの感情に襲われる弱い者である。地上の感覚では決して「幸せ」と思えない状況にあっても、「幸せ」ということができる元は、私のことをすべて知っておられる神である。この方と共に生きれば必ず実がなり、枯れることがない。この信仰に立った時、本当の幸せが見える。